

ご紹介資料

業務疑似体験ワーク



研修の目的

- ➡ 研修を通して日常の中で、どのようなコミュニケーションが大切かを学ぶ
- ➡ チームワークを構築するためのポイントを理解し、目標の共有、指示の出し方など組織人としてのあり方について学ぶ

受講対象者

全社員

- コミュニケーション・組織における役割を理解したい方
- 仲間との良好な関係を築けるようになりたい方
- 同じ方向を向けていない組織やチーム

CURRICULUM

カリキュラム

所要時間



2時間

実施人数

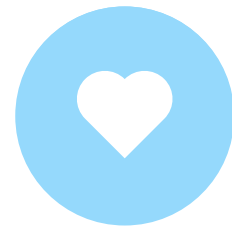


5人～



オリエンテーション

- 目的の説明
- ルール説明



ワーク開始

- ワーク実施
1チーム5名が望ましい（5～7名での実施は可能）



グループワーク

- 業務疑似体験ワークの狙いの確認



振り返り・講義解説

- グループワークを通じた振り返り
- チームワークを構成する4つの要素



クロージング

- 日常に取り入れられる事を考える

スライド紹介

業務疑似体験ワークの狙い

- 組織の中で、チームが協働するとはどういうことを考える
- チームで課題を達成するために、情報がどの様に伝達され、わかちあえるかを学ぶ
- チームリーダーのあり方がメンバーに与える影響に気づく
- 組織における立場の違いとチームワークを学ぶ



セルフチェック：皆さんの現場ではどうでしょうか？

- 上の人は、目標は部下も分かっていると思って行動しているが、部下は目標が全然分かっていない。
- 上司は、自分はこんなに忙しくしているのに、部下は遊んでいると、不満を抱いている。
- 上に対して、何をしたらよいのか、目標は何ですかという問いかけがない



チームが協力して仕事を進めていくためには、**目標の明確化と共有化**がその基本にあります。そのためには、組織のメンバーは、地位の上下を問わず、**それぞれの立場でできることを、積極的に見出し、相手にかかわっていくこと**です。

03

反応のコミュニケーション

コミュニケーションはその量と質が大事

コミュニケーションの質とは、一言で言えば反応のコミュニケーションです。メンバーそれぞれに、自分が言いたいことが、どれくらい明確に表現し伝達できているか。自分の考えや思いを、自分では明確に表現しているつもりでも、相手には、その通り伝わっていないことがあります。本当は分からないのに、分かった振りをすることがあります。それは正確な反応ではありません。分からない時には分からないと、伝え手に言うことで、コミュニケーションが始まります。



反応のコミュニケーションはチームを成熟させていくものです。同時にチームの目標達成がより良いものになっていく源になります。

